

令和6年11月15日

箕輪町議会議長

箕輪町議会議員 小出嶋文雄

議員グループ研修派遣結果報告書

箕輪町議会議員グループ研修実施要領第4条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

研 修 名	市町村アカデミー市町村議会議員特別セミナー
研修の期間	令和6年10月31日から11月1日
研修の場所	千葉市 市町村アカデミー
成 果 (具体的に)	① 多様な人材の地方議会への参画促進（谷口尚子講師） 日本の民主主義は制度は充実しているが選挙は活性化していない 選挙の投票率を上げるには、投票しやすい環境づくり、投票しやすい仕組み（DX活用など）、情報提供、投票すると利益があるようなことなど考える。 主権者教育は効果があるか 選挙啓発を目的にした主権者教育の在り方、 地方議員のなり手を増やすには 地方議会改革 制度の改革、議会内の意識改革、地方議会の役割変化（優先順位、調査政策立案能力の向上、住民を難しい課題に取り組む協力者 ② 縮退の時代に生き残るための新しいまちづくり実践論（西村浩講師） 中心市街地の空き地が駐車場から活動の場になっていく事例、任の力を活用しこども女性のいる町をつくっていく仕掛け

2024年 11月 15日

箕輪町議会議長

箕輪町議会議員 中野友美

議員グループ研修派遣結果報告書

箕輪町議会議員グループ研修実施要領第4条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

研 修 名	市町村議会議員特別セミナー
研修の期間	2024.10.31-2024.11.1
研修の場所	市町村アカデミー
成 果 (具体的に)	1 多様な人材の地方議会への参画促進 政治への無関心さを、何をもって課題解決していくべきか、高校生への主権者教育の事例、住民を協力者とみなす役割変化など学べた 2 縮退の時代に生き残るための新しいまちづくり実践論 佐賀サンライズパーク、佐久中込などの例を参考に、人口が減っても幸せを考えられた街にする考えを学んだ。投資の考え方の変換。公共事業を固定資産で回収するという土地の価値を視点に入れることの大切さ。 3 ヒト・モノ・カネを繋げるローカルハブ構想（十勝バスの挑戦） 十勝バスを再生した戦略から、本気を見せると住民が変わること、失敗やクレームの前提が勘違いであり、1つの挑戦が始まりであること。町民に選ばれる「路線」は実現できることを学んだ 4 ジェンダーギャップの解消（誰もが住みやすい地域へ） お金をばら撒いても、女性の息苦しさは変わらない。移住婚政策、的外れな少子化対策。女性のいない民主主義状態を再認識した。ただ、働きたい女性にフォーカスした講演で少し残念だった。
グループ研修 派遣議員名	中野友美

令和6年11月15

箕輪町議会議員 荻原 省三 様

箕輪町議会議員 平出広志

議員グループ研修派遣結果報告書

箕輪町議会議員グループ研修実施要領第4条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

研 修 名	令和6年度 市町村議会議員特別セミナー
研修の期間	令和6年10月31日～11月1日
研修の場所	千葉県美浜区 市町村職員中央研修所
成 果 (具体的に)	1 多様な人材の地方議会への参画促進 講師 慶應義塾大学 法学部教授 谷口尚子 氏 統一地方選挙における投票率の低下傾向とその概況について、投票率向上に向けて若年層向け主権者教育に着目し、学校現場での総合的学習、模擬投票の活用、議会と学校の協働、「子ども・青年議会」等知識だけでなく良い経験が伴うと効果が大きくなる、とくに面白い実習は投票意欲を向上させる。 議員のなり手不足について、多様な人材が立候補しやすい環境整備の推進、議員に関心を持つ人向けの研修、若者女性候補者への支援策、議会のあり方について、議会の通年開催、休日夜間開催など運営方法の柔軟化を提案していただいた。 当町議会改革にむけたヒントを学ぶことができた。 2 縮退の時代に生き残るための新しいまちづくり実践論 講師 (株)ワークビジョンズ代表 西村 浩 氏 建築家・クリエイティブディレクターとして、出身地佐賀市の空き店舗の多い暗い商店街の駐車場を活用し、さまざまなひとが楽しめる「わいわいコンテナ」やシェアオフィス、ママたちの運営する「ベーグル専門店」の開業を展開し空間活用による地域再生を手始めに、佐賀国 スポーツ競技場周辺の「SAGA サンライズパーク」整備を監修するまでに空間再生を公民連携の手法を実践している。 佐久市中込地区のエリアリノベーション事業を現在進行中 人口減少時代の都市政策はエリアに価値を見出し、住みたい、働きたい町づくりが選ばれる町となることを学ぶことができた。

	3 ヒト・モノ・カネを繋げるローカルハブ構想（十勝バスの挑戦） 講師 十勝バス㈱代表取締役 野村 文吾 氏 大赤字の十勝バスを先代から引き継ぎ、営業強化を1つの停留所（100㌔範囲）から戸別訪問し運賃、乗り方に不安を発見し、不安解消と 目的地の提案として「日帰りバスパック」を企画し営業の成果を上げ、40年ぶりに利用客数が増加。社員が輝き始め「誇りを取り戻すこと」ができた。コロナ禍で危機を迎えた時、社員の人材育成に力を入れ、社が成長することで最大の危機を乗り越えることができた。 次に、市民にとっての最善の生活環境を整備する事業を企画し、市民の集う場所として、「ミニ生活・交通ターミナル」のローカルハブをつくり、また、バスにスーパーを乗せた、マルシェバスを運行等、輸送と人流の融合をさせた事業で市民に喜ばれる街づくりに貢献している。 小さな検証から始まった行動が「交通×まちづくり」という新しい形の地域作りの成功事例である。 講師の「知識は行動して初めて成果となる」の言葉に深く感銘した。 明るい箕輪町づくりのために、私も小さな行動を起こさなければならないとあらためて思う。 4 ジェンダーギャップの解消（誰もが住みやすい地域へ） 講師 ジャーナリスト 浜田 敬子 氏 現在、地方から東京を中心とした都市圏への若者、とりわけ女性の流出が課題となっている。 地方は男性中心社会のままであり、女性が女性ということだけで、会社においても補助的な仕事のみ甘んじている現状の解決が喫緊の課題である。兵庫県豊岡市では「ジェンダーギャップ解消宣言」を発し、職場だけでなく、家庭、地域といった街全体のジェンダーギャップ解消の取り組みを行っている。 自治会の改革の一つとして、災害時の避難所における女性の目線をいれる必要性についても言及した。 世界ジェンダーギャップ1位のアイスランドの、・男女同一賃金・男性育児休業取得義務・クォーター制の導入等先進事例の紹介があった。 箕輪町においても、できることからジェンダー平等の動きを進め、女性が活躍できる社会・職場づくりに取り組む必要性を感じた。
グループ研修 派遣議員名	平出広志 小出島文雄 中野友美

	③ ヒト・モノ・カネを繋げるローカルハブ構想（十勝バスの挑戦） （野村文吾講師） 十勝バスの事例で、主要路線は残してそこからタクシー、ボランティアなどでつなぐ、アクセスする構想 ④ ジェンダーギャップの解消（誰もが住みやすい地域へ）（浜田敬子講師） 若い女性が地方から出て行ってしまう 若い世代は不安 根強く残る性別役割分業意識 人口減少の根本にはジェンダー不平等がある 〔全体〕実態を学び、意識を変えていく活動の実践が必要と感じた。 推進していくにはどうしても引っ張っていく人材が必要だと感じた。
グループ研修 派遣議員名	小出嶋文雄、平出広志、中野友美